

# 模擬申請書

注) URA 申請書改善支援用です。本申請には使用できません。

下記のステップ 1, 2, 3 に従って模擬申請書を作成し PDF 化後、申請内容ファイルも PDF 化し、これらの結合ファイルを改善支援申し込み時に登録したパスワードで保護し、URA 研究戦略推進室に送付してください。

## ■ ステップ 1：確認事項のチェック

確認事項	Yes/No
—専門家チェックについて— 申請書の内容について、指導教官又はそれに代わる人からのフィードバックによる改善を行いましたか？ ※原則として URA 申請書改善支援は、専門家による本格的な内容改善の後の「伝わり方改善」と位置づけています。ただし、分野の特性により困難な場合は柔軟に対応致します。	
—ご協力をお願い— 採択された申請書は、今後挑戦する後輩達にとって得難い学習材料となります。本申請が採択された場合、あなたの申請書を非特定化(anonymize)をし、申請者限定の教材として使わせていただくことは可能ですか？※非特定化した状態を確認いただいた後に使用します。	
—支援室 締切について— この支援は本申請とは異なります。ご自身の書類提出先及び締切日を把握していますか？ 提出先: _____ 支援室、 〆切: _____ 月 _____ 日	

## ■ ステップ 2：下記チェックリストの観点で申請内容ファイル見直す。

チェックリスト	Yes/No
研究内容を端的に表し、かつライバル申請書の中で注目される内容か	
申請者の研究を含めた広い領域における本研究の重要性を簡潔に述べているか	
分野における重要な未解決問題に対する取り組みとして述べられているか	
申請者のこれまでの関連分野における研究内容について、自分の寄与が見えるように述べているか	
これまでの申請者の研究、あるいは同分野の研究の問題点・未解決課題を述べているか	
問題の解決方法・研究方法をわかりやすく述べているか	
研究目的を直接的な表現で述べているか(例:「本研究の目的は〇〇である」など)	
問題の解決に繋がる新しいアイデア・手法・コンセプトを提案しているか	
申請者のオリジナリティや他の誰でなく申請者こそがこの研究をすべき理由を述べているか	
分野の重要文献を適切に引用しているか(その分野を良く理解していることのアピール、審査員になる人の重要業績を言及出来ているのが理想←難易度高し)	
(PD, RPD 限定)申請者の実施した事項のうち博士課程在学中の研究内容がその他のものと区別ができるように記載したか	
これからの申請者の研究によって、領域や他の領域にどのような展開が期待できるかを説明してか	
様式の指示書きに従い、必要項目をもれなく記述したか	
研究方法、研究内容の計画性をアピールできているか	
何を、どこまで明らかにしようとするのが明確にのべられているか	
所属研究室の研究との関連において、申請者の担当部分が明確か	
所属機関外で研究を行う場合、その旨記述しているか	
先行研究と比較し、本研究の特色、着眼点、独創的な点を記述したか	
研究計画について、申請時点から採用までの準備も入れ、年次毎に漏れなく記載したか	
専門が少し離れた審査員にも理解しやすい記述にしたか	
領域の専門家の間のみで使われる用語(jargon)を避け一般的な用語を用いたか	
数十もの申請書を読む審査員が最小の労力で内容を理解できる工夫(セクション立て、適切な図示)をしたか	
(PD, RPD 限定)受入研究室の選定理由:受入研究室を知ることとなったきっかけ、及び、採用後の研究実施の打合せ状況を記述したか	
(PD, RPD 限定)受入研究室の選定理由:申請の研究課題を遂行するうえで、当該受入研究室で研究することのメリット、新たな発展・展開を記述したか	

## ■ ステップ 3：次からの申請書のうち、①から⑧のみを記入し、本ファイルを PDF 化する。

(申請書情報)

令和3年度採用分 特別研究員－PD

申請書

審査区分	①申請資格	PD	受付番号	
	②書面合議・面接審査区分			
	③書面審査区分			
	④小区分名			
	⑤小区分コード		⑥専門分野	

⑦研究課題名	
--------	--

〇〇大学

1・申請者情報等

(申請機関コード: \_\_\_\_\_)

⑧氏名	(フリガナ) 登録名	
-----	---------------	--

⑨学歴 (学部・修士)	1. 年 月 大学 学部 学科卒
	2. 年 月 大学大学院修士課程入学 ( 研究科 専攻)

⑩博士の状況	1. 入学年月:平成(西暦 )年 月 編・転・再入学
	2. 編・転・再入学時の在学期間換算: 年 ヶ月
	3. 大学院名:
	4. 研究科名:
	5. 研究科種別:
	6. 専攻名:
	7. 課程種別:
	8. 修了・退学等:平成(西暦 )年 月
	9. 学位:平成(西暦 )年 月 日
	10. 休学期間合計: 年 ヶ月
	11. 平成31(西暦2019)年4月1日時点における博士在学期間累計(休学期間を除く): 年 ヶ月

⑪研究・職歴等	1. 年 月 ~ 年 月
	2. 日本学術振興会特別研究員採用歴 D C:平成(西暦 年 月)~平成(西暦 年 月) (受付番号: - ) P D:平成(西暦 年 月)~平成(西暦 年 月) (受付番号: - ) RPD:平成(西暦 年 月)~平成(西暦 年 月) (受付番号: - )

⑫学歴、⑬博士の状況、⑭研究・職歴等別紙:有

⑬博士の特記事項の有無	(博士の特記事項)		
⑭出身大学院の研究指導者	(フリガナ)氏名	職名	
	研究者番号		
	所属機関		
	部局	部局種別	
⑮現在の受入研究者	(フリガナ)氏名	職名	
	研究者番号		
	所属機関		
	部局	部局種別	
⑯採用後の受入研究者	(フリガナ)氏名	職名	
	研究者番号		
	所属機関		
	部局	部局種別	
	連絡先		
⑰申請者受入部局正式名			
⑱評価書作成者1	(フリガナ)氏名	職名	
	所属機関		
	部局	部局種別	
	連絡先		
⑲評価書作成者2	(フリガナ)氏名	職名	
	所属機関		
	部局	部局種別	
	連絡先		

2. 【現在までの研究状況】(図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。様式の変更・追加は不可(以下同様))

- ① これまでの研究の背景、問題点、解決方策、研究目的、研究方法、特色と独創的な点について当該分野の重要文献を挙げて記述してください。
- ② 申請者のこれまでの研究経過及び得られた結果について整理し、①で記載したことと関連づけて説明してください。その際、博士課程在学中の研究内容が分かるように記載してください。申請内容ファイルの「4. 【研究遂行能力】」欄に記載した論文、学会発表等を引用する場合には、同欄の番号を記載するとともに、申請者が担当した部分を明らかにして記述してください。

(現在までの研究状況の続き)

申請者登録名

### 3. 【これからの研究計画】

#### (1) 研究の背景

これからの研究計画の背景、問題点、解決すべき点、着想に至った経緯等について参考文献を挙げて記入してください。

#### (2) 研究目的・内容 (図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください)

- ① 研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。
- ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、具体的に記入してください。
- ③ 共同研究の場合には、申請者が担当する部分を明らかにしてください。
- ④ 研究計画の期間中に異なった研究機関（外国の研究機関等を含む）において研究に従事することを予定している場合はその旨を記載してください。

申請者登録名

(研究目的・内容の続き)

### (3) 研究の特色・独創的な点

次の項目について記載してください。

- ① これまでの先行研究等があれば、それらと比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点
- ② 国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義
- ③ 本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し

申請者登録名 \_\_\_\_\_

(研究の特色・独創的な点の続き)

**(4) 研究計画**

申請時点から採用までの準備状況を踏まえ、研究計画について記載してください。

申請者登録名

(研究計画の続き)

#### (5) 受入研究室の選定理由

採用後の受入研究室を選定した理由について、次の項目を含めて記載してください。

- ① 受入研究室を知ることとなったきっかけ、及び、採用後の研究実施についての打合せ状況
- ② 申請の研究課題を遂行するうえで、当該受入研究室で研究することのメリット、新たな発展・展開

※ 個人的に行う研究で、指導的研究者を中心とするグループが想定されない分野では、「研究室」を「研究者」と読み替えて記載してください。

申請者登録名

## (6) 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続が必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。例えば、**個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験**など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記述してください。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

4. 【研究遂行能力】 研究を遂行する能力について、これまでの研究活動をふまえて述べてください。これまでの研究活動については、網羅的に記載するのではなく、研究課題の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜引用して述べてください。本項目の作成に当たっては、当該文献等を同定するに十分な情報を記載してください。具体的には、以下(1)～(6)に留意してください。

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読の有無を明らかにしてください。査読のある場合、採録決定済のものに限ります。）著者、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp 開始頁－最終頁、発行年を記載してください。

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

(3) 国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を明らかにしてください）

著者、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。（発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもよい。）

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

(3)と同様に記載してください。

(5) 特許等（申請中、公開中、取得を明らかにしてください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみ記載してください。）

(6) その他（受賞歴等）

--

申請者登録名

(研究遂行能力の続き)

申請者登録名